



1 はじめに

本校は明治6年に開校し、今年で142年目を迎える歴史と伝統、そして千坪の芝生の校庭をもつ特色ある学校である。学校経営の指針である「輝く谷田っ子育成プラン」の柱として、『児童一人ひとりの可能性を拓く文武両道の学校づくり』を掲げている。

「子どもたちにとって一生の財産となるもの、人生を明るく豊かにするものを、現在そして将来にわたって獲得するための可能性を十分に広げる」。それが、私たち小学校教育に従事するものの使命である。以下に、児童の視野を広げ、希望あふれる、明るく前向きな生き方を育てる本校の実践の一部を紹介したい。

2 特色を生かし、児童の可能性を拓く文武両道の実践

(1) 運動好きな、心身共にたくましい児童を育てるための取組

- ① 業間休みを30分に拡大し(「元気タイム」)、芝生の面を含め校庭をさらに魅力ある遊びの場とするために、ミニサッカー、バスケットボール、ポートボール、ドッジボールの各コートを設置し、時間と空間、仲間とかかわる場を保証する。
- ② 運動に関する対外行事において、対象となる全児童が十分に練習できる期間と指導を保証する。校内大会後は、負けた学級が代表学級の練習をサポートしたり、全校児童参加の壮行会を企画運営し、学年や学校全体の一体感をはぐくむ。
- ③ 相撲、陸上競技等の市や体育協会主催の各種大会についても、児童はもとより保護者にも幅広く情報を発信し、積極的な参加を促す。
- ④ 浦和レッズを招聘し技能やこの「ハートフルサッカー」を通して、運動の特性に触れる楽し



さを全員に味わわせ、「未来くる先生事業」を活用して、将来に対する夢や希望をはぐくむ。

(2) 心を耕す文化的活動等の取組

- ① 金管バンドを核とする音楽活動の充実に努め、指導者を招聘しての演奏やドリル技能の向上、様々な行事への幅広い参加による自信と誇り、感謝の心を育てる。
- ② 地域ボランティアをお迎えし、芝生の上でのピクニック給食やグリーンコンサート、読み聞かせボランティアと教職員とのコラボによる「読み聞かせフェスタ」、育成会ボランティアと保護者、教職員のコラボによる「谷田っ子広場」などを通して幅広い人的交流を図る。本、実験、物づくり、ゲームへの挑戦等を通して、児童の興味・関心の幅を広げさせる。
- ③ 全校児童が「一人一カップ運動」(カップに芝の種をまき、葉が伸びた段階で校庭に補植する)を展開し、生き物を愛する心や校庭を大切にすることを育てる。
- ④ 「家庭学習の手引き」を活用し、児童一人ひとりが理解・習熟を確かなものとする。



3 おわりに

様々な取組の結果、自分の可能性にブレーキをかけることなく、色々な分野に積極的にチャレンジできる児童や、自分に自信もてる児童が多くなってきたことは嬉しい限りである。鎌倉時代の禅僧「道元」の教えに、「花紅にして美なりといえども、一人開くにあらず、春風来たりて初めて開くなり」という言葉がある。一人ひとりが近い将来、その子なりの美しい花を咲かせるための『春風』となるよう、今後も教職員一丸となって、希望あふれる文武両道の学校づくりに精一杯努力していきたい。